"ひと"と"ひと"をつむぐことから生まれる
教育やまちづくりを目指して

Profile 2015-2016

特定非営利活動法人　ひとつむぎ
〒771-1153　徳島県徳島市応神町吉成字有天４- ７
http://hitotsumugi.org/

2016. 3

ひとつむぎ

表紙.indd　1　　2016/03/04　0:49:50

ひとつむぎの理念と目指す先…… 3
私たちの源流にある設立理念や目指す先について
ひとつむぎの全体像…… 4
私たちが行う事業の全体像について
ひとつむぎのあゆみ…… 6
私たちの沿革について
事業ハイライト…… 8
2015 年度に実施した主な事業の概要について
ひとつむぎについて…… 14
NPO 法人ひとつむぎの概要やリクルートについて

設立理念

私たちは " ひと " と " ひと " を つむぐ存在でありたい。

どれほど美しい糸が集まっても、それは糸でしかありません。
しかし美しい糸は、つむぎ合うことで綺麗な布になります。
そして綺麗な布を併せると、美しい織物が生まれます。
わたしたちは、よそものの視点から地域の魅力を引き出し、
よりそいながら新たな魅力を育てて行きたい。
わたしたちは、これらを " ひと " と " ひと " をつむぐことで実現し、
地域の活性化を図りたいと考えています。

私たちの目指す先

" ひと " と " ひと " をつむぐことから生まれる 教育やまちづくりを目指して

わたしたちは、牟岐での原体験の中でいくつかの課題も垣間見ました。
それは、産業の衰退や少子高齢化、それに伴う多様な教育機会の不足――
すなわち過疎地が抱える課題です。
今ある魅力を知る事は学びの場であり、新たな魅力を育てることはまちづくりの場。
わたしたちは、学びの場とまちづくりの場の双方を
" ひと " をつむぐことで繋ぎ合わせ、これらの課題を乗り越える原動力を生み出したい。
これが、わたしたちにできる恩返しだと考えています。

大切にしたい４つの姿勢

よりそうこと
私たちは地元のファン・サポーターとして、同じ未来を思い描き、地元に寄り添いながら活動します。

よそものであること
私たちは " よそもの " だから見えること、" よそもの " だからできることも大切にします。

学び続ける存在であること
私たちは常に対話を重んじ、お互いの意見や声、そして " ひと " に対し、誠実に耳を傾け、敬意をもって尊重します。

対話を大切にすること
私たちは、私たちの特徴でもある " 学生らしさ " を忘れず、私たちにしかできないことを追求します。

本文.indd 2-3 2016/03/04 0:49:57

ひとつむぎは、３つの領域から
地方創生の原動力を生み出します。

よそものだから見えた魅力、そして課題。今ある魅力を知る学びの場と、新たな魅力を育てるまちづくりの場。そこには必ず " ひと " と " ひと " の交わりが存在します。私たちはそれぞれを相互に連携させることで、課題を乗り越えるための力強い変化を地元に生み出したいと考えています。

地元に寄り添うファン・サポーターとして、私たちはこれからも " ひと " に向き合い続けます。

交流支援事業

教育やまちづくりを考えるとき、そこには必ず " ひと " と " ひと " の交わりが存在します。私たちは世代やまちをつむぐ存在を包括するものとして、交流支援事業を位置付けています。
私たちは、教育支援事業とまちづくり支援事業を独立したものと捉えるのではなく、相互の関係性・補完性を最大限引き出せるように、交流支援事業を展開します。

ひとをつむぐ―" ひとつむぎ " という名前のルーツです。

女川・牟岐きずなプロジェクト⇒ p10-11
ひと・夢つむぎ座談会⇒ p13

教育支援事業

私たちは、教育は世代と世代の交わりから生まれるものだと考えています。それは大人と子供、中学生と大学生といった異なる世代どうしだけではなく、同じ世代どうしの関わり合いの中から、それも背伸びをして何かを教えるわけではなく、お互いが等身大の姿で接するだけでも自然に生まれています。

私たちは、世代どうしのつながりをより深める為に、ICT の利活用や他の自治体や団体とも連携も行いながら教育支援事業を展開します。

シラタマ学級⇒ p8-9
高校への出講⇒ p13
ひとつむぎ & マナビノマド コラボセミナー⇒ p12

まちづくり支援事業

私たちが拠点とする牟岐町には、豊かな自然や文化、そして何よりも " ひとのあたたかさ " という素晴らしい魅力があると感じています。しかし一方では、過疎高齢化や産業の衰退に挙げられるような課題を抱えていることも事実です。

私たちは中長期的な視点から見て、" まち " そのものをどのように持続可能的に発展させていくのかという視点から、産業振興やコミュニティの再生、文化の継承などの分野においてまちづくり支援事業を展開します。

むぎみらい会議⇒ p12
出羽島プロジェクト⇒ p13
ねことしょ⇒ p13

本文.indd 4-5 2016/03/04 2:30:13

8月

2014年8月　設立のきっかけ

すべてのはじまりは、2014年夏。
徳島県牟岐町で開催された、教育・国際交流プログラムの
スタッフとして参加するため、徳島、関西圏を中心とした若者が
徳島、牟岐の地へ降り立ちました。

1週間のプログラムの期間中、
彼らは牟岐でその日々を過ごしました。

牟岐の持つ豊饒な海、豊かな山々、食文化、伝統、
そして「ひと」のあたたかさ……

牟岐での日々を過ごすうちに、彼らの心の中で
「牟岐のために恩返しをしたい」
「大学生の自分たちだからこそできる貢献をしたい」
という気持ちがふつふつと湧き上がってきていました。

その思いに多くの人々が共感し、たちあがった団体。
それが、ひとつむぎです。

3-8月

第1期では、子どもたちと町の課題を考え、行動に移しました。回を重ねるごとに成長していく姿が印象的でした。⇒ p8-9

シラタマ学級　第1期

12-3月

第2期では、前期メンバーのサポートの下、新たなメンバーで町の魅力について考え、町の方への発表を行います。⇒ p8-9

シラタマ学級　第2期

シラタマ学級 第2期は、とくしま県民活動プラザの"ゆめバンクとくしま"助成事業です。

シラタマ学級の成果！

1-5月

島の方、町の方、学生、社会人と沢山の人を巻き込んで島の未来を考え、空き家リノベーションにつなげました。⇒ p13

**出羽島プロジェクト
連続ワークショップ**

8月

シラタマ学級での発見や経験を基に、子どもたちが大人も巻き込んで町おこしのイベントを企画・運営しました。⇒ p8-9

**8.30 むぎいろ
フェスティバル**

8月

様々な背景を持つ大学生と牟岐の中学生との対話を行いました。⇒ p13

**ひと・夢つむぎ
座談会**

3月

車のない静かな島でのんびり読書が楽しめる移動図書館を開設します！⇒ p13

ねことしょ

3月

2016年3月中にも数事業を実施予定！

この他の事業についてもご紹介しています。⇒ p12-13

2014年　2015年　2016年

10月

2014年10月

思いを一つに、ひとつむぎが任意団体としてスタート！

12月

2014年12月

ひとつむぎの結成が徳島新聞1面で紹介されました！

徳島新聞
牟岐活性化へ恩返し
英語村 学生スタッフが団体結成
教育や交流活動支援

2月

2015年2月

ひとつむぎが、NPO法人として認証され、本格的な活動を開始！

8-10月

女川・牟岐きずなプロジェクト

宮城県女川町と牟岐町との小学校間交流をスタートさせました。⇒ p10-11

11月

**宝の島 徳島
わくわくトーク**

徳島県知事とのとのトークセッションを開催！⇒ p13

本文.indd　6-7　2016/03/04　2:22:36

教育支援事業

シラタマ学級

教育発の
次世代の地方創生モデル

シラタマ学級は、牟岐町の生涯学習事業の一環で、子ども達が主体性や協調性といったコミュニケーション力を身に付けることを目的としたプログラムです。当法人の大学生がサポートしながら、中学生が自らイベント等を企画し、実現させるプロセスを経験させることを通じて "社会人基礎力" を育成することを目指しています。2015 年上半期の第 1 期に参加した中学生は、小学生や地域の大人たちを巻き込んだイベント "8.30むぎいろフェスティバル" を実現させました。また、12 月に始まった第 2 期プログラムでは、フィールドワークを取り入れながら、牟岐町の魅力と課題の掘り起こしに挑んでいます。

実施背景と目的

ー牟岐町の教育課題と過疎

現在の牟岐町には、小中学校がそれぞれ 1 つずつしかありません。生徒数も急激に減少し、今や 1 学年 1 クラスと過疎化の真っ只中にあります。

こうした濃密な人間関係で育つ子供たちには、素直で真面目であったりとても仲が良いといったプラス面がみられる一方で、自分で考えて行動する機会が少なかったり、価値観の固定化が生まれたりしやすいなどマイナス面も確認されます。

ー課題解決のためのシラタマ学級

これらの課題解決に向けた活発な議論が町の中で行われ、「大人との繋がりを築くことを通じて、自分の意思や判断で物事に取り組む力や、周囲と協調しながら自分を表現する力を身に付ける機会を設けることが必要」との結論が導き出されました。

そこで大学生主体の当法人が、子供と大人とのつなぎ役としてプログラムの作成、運営を担うことになったのです。

ーシラタマ学級を牟岐で行う意義

牟岐町では、牟岐保育所、牟岐小学校、牟岐中学校を "市宇ケ丘学園" と称し、0 歳から 15 歳までの 15 年間を見通した連続性のある教育活動を行うとともに、地域の中の学園として、総がかりで子どもの教育に関わる "共育" を推進する "パッケージスクール" に挑戦しています。

また、経済産業省では「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力＝"社会人基礎力"」の育成を提唱していますが、今、牟岐町の子供たちに求められているのは "社会人基礎力" でないでしょうか。こうした学校教育でケアが難しい部分を、きめ細かな生涯学習事業で埋めていくことによって、過疎化を強みとすることができると考えています。

実施内容

Phase 1 事前学習

3 月 16 日実施
- 中学校生徒会メンバーと、大学生とのアイスブレイクと座談会

4 月 2 日実施
- アイスブレイク
- 課題発見ワークショップ
- チーム名決定
- プレゼンテーション練習

4 月 6 日実施
- 小・中学校でのメンバー集めプレゼンの作成と練習

4 月 17 日実施
- 生徒会による小・中学生へのプレゼン
- ブレスト体験

5 月 9 日実施
- メンバーと課題解決の方法をブレスト
- 企画書を作り、牟岐町長へ提案

Phase 2 体験学習

5, 6, 7 月実施
- 地域の方と一緒にイベント内容ツメ

8 月 26 日実施
- 中間リフレクション (全体目標の再確認・イベントの達成基準の策定・自分自身の目標を再確認)

8 月 30 日実施
- **8.30 むぎいろフェスティバル実施**

Phase 3 事後学習

9 月 14 日実施
- 中学生対象の事後リフレクション

9 月 20 日実施
- 町の方も交えた全体リフレクション

△まだ緊張気味の生徒会

△生徒会メンバーが場を回します

△企画内容を町長へ提案！

子どもたちを中心に、町の大人にも力を借ります。

△町の方と一緒につくり上げました

この第 1 期メンバーがサポート役となり、12 月にシラタマ学級第 2 期がスタートしました。つながりの好循環が生まれようとしています。

本文.indd 8-9 2016/03/04 0:50:32

交流支援事業

女川・牟岐きずなプロジェクト

女川と牟岐のきずなをつむぐ

女川・牟岐きずなプロジェクトは、防災や過疎といった共通の課題をもつ両町で、子どもたちの交流をきっかけに、それぞれの町の未来をともに考えるプロジェクトです。現在の牟岐町には子どもが少なく、狭まった環境で生活することで子どもたちの価値観が狭まる傾向にあります。このプロジェクトでは、ICT を活用し異なる環境に住む同年代の子どもたちが気軽にかかわり、幅広い視点を見につける機会を作ります。子どもたちがつむいだ " きずな " をきっかけに、両町に共通する課題に力を合わせて取り組む原動力を生み出したいと考えています。

実施背景と目的

一交流がはじまったきっかけ

宮城県女川町は、先の東日本大震災で甚大な被害を受けた町です。この町に自治体レベルで最初に支援活動を開始したのが徳島県でした。女川第二小学校（現女川小学校）を拠点に、子どもたちの心のケアや学校再開支援にあたり、学校再開以降は、徳島県立徳島商業高校による交流支援事業が女川小学校との間で継続的に続けられています。今回の牟岐小学校と女川小学校との交流の背景には、こうした徳島県との教育を通じた絆があったのです。

そして 2015 年、牟岐町と女川町との間で新たな接点が生まれました。(一社)HLAB が主催するサマースクールが、2014 年に牟岐で開催されたことに続き、2015 年からは女川町でも開催されることになりました。HLAB を通じての人のつながりは、子どもたちだけではなく大学生や大人にまで交流が拡がる可能性を与えてくれました。加えて東日本大震災時に女川第二小学校の教頭をされていた阿部清司先生が女川小学校校長に就任され、交流に快諾をいただいたことをきっかけに一気に交流が進んでいきました。

一両町の共通点と私たちの思い

南海トラフ地震で繰り返し津波被害を受けてきた牟岐町と東日本大震災を多大な被害をうけた女川町は、" 津波 " という逃れることができない宿命を背負っています。過疎による人口減少や、第 1 次産業の不振といった課題も共通しており、教育に目を向けると 1 町 1 小中学校体制や地元に高校がないなど極めて類似した状況にあります 。

その中で交流を行うことで両町児童の " きずな " をつむぎ、まずは子ども、そして大人へと両町に共通する課題に力を合わせて取り組む原動力を生み出したい。そのような思いがあり、交流は始まりました。

800km も離れた牟岐町と女川町とが共通した価値観を持ち、交流が始まったことは、偶然から生まれた必然ではないでしょうか。

△牟岐町と地形が類似する女川町

実施内容

8 月 7 - 8 日実施
女川・牟岐交流キャンプ

一新たな " きずな " のはじまり

両町の交流事業のキックオフイベントとして、女川小学校の児童を牟岐町に招待し、牟岐小学校の児童との交流キャンプを実施しました。このキャンプでは「お互いが仲良くなること」「子どもたちがお互いの町のことを知ること」の 2 つを目指しました。

△はじめは緊張した BBQ

一交流キャンプのプログラム

1 日目は、BBQ でアイスブレイクをした後にお互いの町の紹介や牟岐の伝統文化に触れる機会を設けました。翌日は貝殻を使いフォトフレームを作りました。2 日目には緊張も解け、互いにメッセージを書きあっている姿が印象的でした。

△両校児童でペアを組み、牟岐あんどんを鑑賞しました。自分で作ったあんどんを紹介する場面も。

△海辺で貝殻拾い　この後貝殻でフォトフレーム作りました。

一交流キャンプを終えて

実際に顔を合わせて交流をすることになり、初めは緊張して距離があったものの帰る頃になると女川小学校児童の口からは「また牟岐にきたい！」との感想が出てきました。新たなきずなをつなぐための第一歩となりました。

この交流キャンプをきっかけに、新たな交流が生まれました。

10 月 16-17 日実施
牟岐町防災キャンプへの招聘

一つながりが生んだ波及効果

牟岐町では、小中学生の防災意識を高めるため毎年 " 防災キャンプ " を開催しています。今年は、交流キャンプをもとに、スペシャルゲストとして女川小学校の阿部校長・高清水教諭のお二人を牟岐町へご招待し、東日本大震災の経験等を踏まえたアドバイスを頂くことになりました。

また、防災キャンプ 1 日目の 10 月 16 日、交流キャンプに参加した両校児童が、テレビ会議を通じて 2 か月ぶりに再会することになりました。

その先に……

現在は ICT の発達により国内はもとより、海外ともテレビ会議を開催することができるようになりました。自分と異なる環境に住む同年代の子どもが関わる機会を与えること、関わるだけではなく適切な助言を加えることによって、刺激し合いながら視野を拡げながら成長することが期待できるのです。牟岐町と女川町は地形的によく似た環境にあり、社会面や教育面での課題も共通しています。急がずゆっくりと、常に「他者を思いやる心」を持ちながら着実に進むことで、新たな可能性が生まれるでしょう。

本文.indd　10-11　2016/03/04　0:50:58

教育支援事業

ひとつむぎ＆マナビノマド コラボセミナー

2016 年 3 月に、高校生に大学の学びの面白さを伝える活動をしている、東京大学の学生を中心とした学生団体 " マナビノマド " を招いてのセミナーを行います。ひとつむぎとして初めて牟岐の高校生たちに対してキャリア教育の視点から関わり、日頃の " 勉強 " と " 学問 " の接続や自主的な学びの大切さ・面白さを大学生の立場から楽しく伝えます。

実施概要

牟岐町には高校がないこともあり、今まで高校生を対象のプログラムはあまり実施されてきませんでした。そこで今回、シラタマ学級で関わった中学生が高校に進学し、町全体としても社会教育に力を入れるというタイミングでひとつむぎが高校生に対するプログラムを行うこととなりました。

義務教育課程を修了した生徒たちには受動的な " 習う " 姿勢ではなく、自発的に " 学び " を得る姿勢を持ってほしいという思いがありました。ひとつむぎ結成のきっかけとなったサマースクールを経験した者が中心となって作った学生団体 " マナビノマド " と連携し、「学校の授業などの日々の生活を見直し、それらを主体的に意味付ける姿勢を獲得すること」を目的にセミナー実施します。

まちづくり支援事業

むぎみらい会議

実施概要

むぎみらい会議は、中高生を中心に異なる世代が一緒に考える時間を共有することを目的に実施しています。各回ごとにテーマを変え、それに合わせて参加対象者も変化するのがこのプログラムの特徴です。2015 年 8 月に開催した

第 1 回では、宮城県で教育支援事業を展開されている NPO 法人 " まなびのたねネットワーク " の伊勢みゆきさんと、(一社)" しこくソーシャルデザインラボ " の佐野淳也さんをお招きして講演していただきました。伊勢さんは宮城県で行っているキャリア教育、防災教育に関する講演を行って頂き、その後のワールドカフェで牟岐町の大人と子供、ゲストの方やひとつむぎと「若者が夢を描けるような町にするためにどうすればいいか」について話し合いました。

2016 年 3 月に実施する会議では、地方に拠点を置きつつ世界で幅広く活躍されている自転車冒険家の西川昌徳さんをお迎えし、「夢と生きるチカラの育て方」について講演していただきます。

△出羽島プロジェクトの様子

△連続ワークショップを終えて

まちづくり支援事業

出羽島プロジェクト

出羽島プロジェクトは、牟岐町にある離島 " 出羽島 " の空き家をどのように地域再生に活用するかといった検討から、実際に空き家を改修するまでの一貫した取り組みを行うプロジェクトです。島の未来を考える連続ワークショップを徳島県出身の建築家である坂東幸輔さんにコーディネートして頂き、地元の方と共に各地の学生や社会人、そして行政の方とも連携しながら島の未来をじっくりと考えました。ここでの結論をもとにリノベーション作業を行っていて、間もなくお披露目を迎えます。

まちづくり支援事業

ねことしょ

静かな島でのんびり読書を。徳島県神山町で活動されている家具デザイナーの鴻野祐さんにご協力を頂き制作した移動図書館 " ねことしょ " を牟岐・出羽島アート展 2016 に出展します。期間中は読み聞かせなどのイベントを定期的に行い、本やそれにより生まれたつながりをきっかけに、島を愛する人が増えることを目指します。

交流支援事業

ひと・夢つむぎ座談会

ひと・夢つむぎ座談会は、牟岐町の中学生がロールモデルとなる大学生との対話を通じて、将来の展望を考え行動する力を養うことを目指した座談会です。今回のテーマは「『グローバル』と『ローカル』を考えよう」でした。座談会では、牟岐町でサマースクールを運営した東京都の大学生や、牟岐町出身の大学生など、様々な背景を持つ 5 人の大学生が登壇しました。大学生は、テーマに沿って、各自の人生を振り返りながら、中学生に将来に向けた力強いメッセージを送りました。

教育支援事業

高校への出講

徳島県の県立高校 2 校への出講を行いました。鳴門高校のボランティア特講の時間では " 大学生が行う地域活動 " というテーマで、ひとつむぎと地域との関わりや地域活動を通じた学びが将来にどのように活きるのかについて話し、高校生に地域活動に興味を持ってもらえるよう努めました。城ノ内高校の進路学習の時間には進路選択から今の活動に至った経緯について話し、高校生の進路選択を考えるきっかけを提供しました。

協力事業 (運営)

宝の島徳島わくわくトーク

本事業では知事と県民との対話の取組の一環として、飯泉嘉門徳島県知事と牟岐町出身の中高生、ひとつむぎで県南地域の未来についての話し合いを実施しました。飯泉知事は一人一人の意見に耳を傾けられ、有意義な意見交換会になりました。最初は緊張していた参加者も終盤には熱のこもった思いを語っていて、参加者一人一人の真剣なまなざしに牟岐町の明るい未来を感じました。

本文.indd 12-13 2016/03/04 0:51:02

ひとつむぎとは？

私たちひとつむぎは「" ひと " と " ひと " をつむぐことから生まれる教育やまちづくりを目指して」をモットーに、大学生を主体に設立した NPO 法人で、徳島県南部の町 " 牟岐町 " をフィールドに地域活性化をめざして活動しています。メンバーは徳島や関西圏を中心に在住する大学生が中心で、年齢・大学・専門はみんなバラバラです。それぞれの専門性を生かしながら、同じ思いをもって活動しています。

ひとつむぎの活動

ひとつむぎの活動は、プロジェクト (企画) の構想から実現に向けた関係団体との折衝やプレゼンテーション、実施後の総括に至るまで、プロジェクト運営の全般にわたって行います。この他にも Facebook やウェブサイトでの活動発信やリーフレットの作成といった広報、そしてファンドレイズなどの財務・会計など、法人経営そのものまで多岐にわたります。もちろん、そのすべてを一人でこなすわけではなく、お互いの得意な分野を生かしながら苦手をフォローし合ったり、社会人のサポートも受けたりしながら、日々新しい事にチャレンジしています。プロジェクトの運営には相応の責任や苦労も伴いますが、その分学びや成長、そしてやりがいも大きな活動です。

プロジェクトの実施にあたっては、毎週 1 回開催するインターネット上での定例ミーティングを軸に、プロジェクトや役割ごとに随時やり取りをしながらの自宅作業が中心となります。

ひとつむぎに関わりたい

活動に必要なのは、何よりも " 熱い思い "。私たちは、そんな熱意を持った大学生の参加を随時募集しています。メンバー募集や活動に関することなど、詳しい情報をご希望の方は、ウェブサイトや Facebook からお気軽にご連絡ください！

NPO 法人ひとつむぎ ウェブサイト
http://hitotsumugi.org/

NPO 法人ひとつむぎ Facebook ページ
https://www.facebook.com/hitotsumugiweb/

メディア掲載

NHK 徳島放送局	(2014.12.30)	ひとつむぎ発足へ向けた取り組みについて
徳島新聞	(2014.12.31)	ひとつむぎ発足 (１面掲載)
徳島新聞	(2015. １.22)	出羽島プロジェクト
NHK 徳島放送局	(2015. １.26)	出羽島プロジェクト
徳島新聞	(2015. ２.12)	アート展、阿波踊り空港パネル展示
徳島新聞	(2015. ３.16)	クックパッドへの郷土料理掲載
徳島新聞	(2015. ５.22)	むぎみらいカフェ
徳島新聞	(2015. ６. ７)	シラタマ学級の町民への発表会
日本教育新聞	(2015. ７.27)	シラタマ学級の取り組みについて
あわわ Free	2015 年８月号	８.30 むぎいろフェスティバル (シラタマ学級)
徳島新聞	(2015. ８. ８)	女川・牟岐きずなプロジェクト
NHK 徳島放送局	(2015. ８. ８)	女川・牟岐きずなプロジェクト
徳島新聞	(2015. ８. ９)	出羽島プロジェクト
徳島新聞	(2015. ８.13)	ひと・夢つむぎ座談会
読売新聞	(2015. ８.31)	むぎいろフェスティバル

とくしま県民活動プラザ「ひと」32 号 (2015.9)

徳島新聞	(2015. ９. １)	むぎいろフェスティバル
徳島新聞	(2015.10.17)	女川交流と防災キャンプ
徳島新聞	(2015.10.17)	幸せここに①
徳島新聞	(2015.10.19)	幸せここに②
日本教育新聞	(2015.10)	教育ウォッチ (４回連載)
徳島新聞	(2016. １. ７)	私たちの未来づくり (シラタマ学級)
NHK 徳島放送局	(2016. ３. １)	牟岐・出羽島アート展開幕 (ねことしょ)
徳島新聞	(2016. ３. ２)	牟岐・出羽島アート展開幕 (ねことしょ)

この他にも多数、活動のご紹介を頂いています。

法人概要

法人名称	**特定非営利活動法人　ひとつむぎ**
設立年月日	2015 年２月 23 日
	（徳島県による認証日：2015 年２月２日）
所在地	〒 771-1153
	徳島県徳島市応神町吉成字有天４- ７
理事長	藤稿　智宏
理事	石原　翔太
	中津留　康幸
	山本　将也
監事	佐藤　優里

2016 年３月２日現在

本文.indd　14-15　2016/03/04　0:51:09